

<総評>具象と抽象、精神と肉体、現実と虚構。短詩形はさまざまな対比をより際立たせてくれる詩形でしょう。散文は一足ずつ歩いていかなければなりません、短詩形は時間や空間を超えて多様なステップを踏めるのも楽しい。対比の面白さが際立った今月でした。

累計の中の数字として消える
死者数の分の好きだった花

桜望子 山形県

——数字という冷たい抽象と、それぞれが好きだった花という、そこにしか無い具象の対比が鮮やか。

まふらーをじっと
巻かれている祖母の
ねむる仔ぐまのようなよこがお

さいう 石川県

——子どもでも赤ん坊でもなく祖母を、仔ぐまのようなど感じる優しさ。祖母と作者の間に横たわる膨大な時間を一気に縮める。

氷河期に
やさしくかける
カーディガン

桜庭 紀子 和歌山県

——就職氷河期という固まりの言葉の冷たさ。せめて少しでも暖かくさせたい。

カーテンは昏さを抱き冬桜

金光 舞 埼玉県

——冬桜は寒緋桜ともいい鮮やかなピンク。対照的にカーテンが包んでいる謎が際立つ。

ポスターに使われている方言が
ちょっぴり変な無人の駅で

狛犬 吠 岡山県

——地元の人間にだけ分かる「ちょっぴり変」。肉体の感覚と言葉には大きな距離があるようだ。

パチンコ屋の光に沿い歩く。

空気が澄んでるだけの故郷。

高橋 泰地 大分県

——地方に行くほど頻繁にあるパチンコ屋。華やかな光から離れたとき、澄んだ空気とのへだたりにふと感じる故郷の疲弊。

石路の花吸う時灯る煙草です

奥井 健太 滋賀県

——群れて咲く石路の花は小さな目を閉じたり開いたり。闇に灯る煙草の火もそのように。

瓶詰めの内の圧力 乗り継いで

川に来たけどすることがない

高田皓輔 千葉県

——川に来ればなんとかなる。瓶詰の自分から解放されると期待して。自然の約束どおり川は流れているが、求める約束が何だったのか見つからない。

舐めあえば傷は浅くて

ゆうぐれの

パフェスプーンの置き場所がない

石村 まい 兵庫県

——本当に傷は浅かったのか分からない。伸ばしたお互いの触手が途方に暮れる。

重力に抗わないで垂れる藤

みな禁色の花を咲かせて

早瀬はづき 大阪府

——自然の法則に逆らわず、しかも「禁色」という人為の法則を保つクールな美しさ。

井の中の 平和

京路 東京都

——現在の世界を一言で言い表せている。長く使えそうだ。

駅名に寺ばかりあり奈良線は

大きな数珠として結ばれる

田村ひなり 奈良県

——文学だけが、こういうコンパクトな好もしい像をつくることができる。